

中心地域整備に関する調査特別委員会（第3回）

日 時 令和元年8月20日（火）

午後2時00分～午後3時30分

場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員7名（欠席：なし）（傍聴者：1名）  
説明員 丸山副町長、実延企画課長、榎尾参事、坂本農林課長、荒金主任  
書 記 花倉書記、花倉事務局長

○大西委員長 皆さんこんにちは。第3回中心地域整備に関する調査特別委員会を開催いたします。開催にあたりまして一言、先日8月15日の台風10号、超大型台風という前ぶれでしたけれども、大きな被害もなく倒木が3件ぐらいということを知っております。大変良かったかなど。町の防災環境も十分な準備をしていただきました。ありがとうございました。それでは、本日の議題に入っていきます。今日の報告・調査協議事項につきましては、最初に道の駅にちなん日野川の郷の運用状況について、2番目に出荷者協議会との連携について、3番目にその他という項目で行っていきますのでよろしくお願いいたします。そうしましたら、執行部のほうから。丸山副町長。

○丸山副町長 冒頭に副町長の丸山でありますけれども、挨拶をさせていただきたいと思います。本日は実延企画課長、坂本農林課長、榎尾企画課参事、荒金農林課主任が出席をして説明を申し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。また今回のこの時間、私の都合でこういう時間になったと思います。申し訳ありませんでした。お礼を申し上げたいと思います。本日の報告・調査・協議事項は、道の駅にちなん日野川の郷に関する事項について、運営状況、そして出荷者協議会の連携について、先ほど委員長さんがおっしゃった通りでありますけれども報告をしてまいります。私からは運営状況につきましては、先般も会議を行ったところでありますけれども、7月末現在で昨年と比較しまして、売り上げ、そして客数共に前年を上回っているような状況であります。引き続き努力をしていただきたいと思いますとおるところであります。また出荷者協議会との連携は、主に会社と役員の方の皆さんの話し合いがなされていると

ころでありますけれども、さらにその上辺だけでなく、言いにくいところも言えるような会議、協議が出来るよう現在も努力されておるところであります。更なる連携が出来ることを期待しておりますので報告をしておきたいと思っておりますけれども、詳細につきましてはまた担当者から報告を申し上げます。前後しましたけれども、道の駅にちなん日野川の郷、レストラン増築工事、設計監理業務の入札を8月9日に行いまして、株式会社桑本建築設計事務所が落札されましたので併せて報告を申し上げます。以下、大西委員長さんの指示によりまして、報告を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 そうしましたら私のほうから、道の駅にちなん日野川の郷の運営状況につきまして報告をさせていただきたいと思っております。タブレット第3回中心地域整備に係る調査特別委員会資料のほうをご覧ください。まず1ページ目上段の表になります。こちらの表につきましては、平成29年、平成30年度は年間の売り上げ、令和元年度につきましては4月から7月までの売上合計の数値の掲載をさせていただいております。1年間の1/3が経過したところでございますが、直売所につきましては2,208万円、昨年度の4月から7月までの同時期と比べて、296万円の売り上げ増、前年比としまして15.5%の増になっております。レジ通過者につきましては、昨年度と比較しまして611人の増、約3.8%の増という形になっております。続きまして、レストランのほうになります。レストランのほう、こちらも昨年度4月から7月と比較しまして124万9,000円の売り上げ増、比率にしまして18.5%の増となっております。レジ通過者につきましては1,856人の増、こちらのほう多くの方に利用させていただいております、約40%の増となっております。最後に、トマト加工さんのほうになります。昨年度と比較しまして、トマト加工さんのほう37万円の売上増、約11%の売上増ということになっております。道の駅全体としまして459万2,000円の売り上げ増、昨年度と比較しまして15.7%の増という比率となっております。下段のほうの表になります。道の駅各施設の利用状況を載せております。先般、前回の中心地域整備の時にもございました加工実習室の利用につきましては、なかなか伸び悩んでいるところが現状でございます。こちらのほうも6次産業化、その辺りとリンクしまして、加工実習室の利用増を目指して参りたいと思っております。年間来場者数のほうは、お手元の資料のほうをご覧ください。続きまして2ページ、3ページ目のほう

になります。こちらのほう、過去3年間の売上と客数につきまして、グラフで推移のほうを表しております。こちらのほうも、先ほど表の数字を申し上げさせていただきましたが、そちらのほうをグラフ化したものになります。こちらのほうもご覧ください。簡単ではございますが、7月末現在の道の駅の経営状況についてご報告終了いたします。

○大西委員長　　そうしましたら、今の運用状況につきまして報告ありましたが、質問のある方はよろしくお願ひします。岡本委員。

○岡本委員　　ご説明ありがとうございます。全体として売り上げが上がっている、来場者数も上っているということで、非常に経営のほう、努力をされているのかなということは感じます。いくつかあるのですけれども、まず加工実習室の事なのですが、サクセスさんになってから使用頻度が減っているということで、これは扱いがどうなっているのかというのがよく分からないのですが、つまり加工所を使うには保健所の許可を取る必要があるということで、現在これは加工業者さんがそれぞれ個々に取らなくてはならない状態になっているのか、それとも保健所の許可ですとか、食品衛生責任者の件ですね。そういうことはサクセスさんが一括してされて、加工した人は自由にサクセスさんのコントロールの下でやれるのか。その辺をちょっとお聞きしたいのですけれども。

○大西委員長　　実延企画課長。

○実延企画課長　　お尋ねのありました加工実習室の運営についてでございます。まず、全体の許可についてはサクセスさんが取っておられる中で、そこで作られたものについて売られるという方法が1つと、あともう1つはそれぞれに個人、作られる方が自ら出される場合において許可を取られる場合の2ケースあるかと思っております。食品表示、許可表示の段階で生産者、販売者と表記がそれぞれにございます。その段階で、それぞれの許認可の状況に応じて販売をされるということで使い分けをされていらっしゃるということで認識をしておりますので。作られるもの、その製品の出し方によって2通りあるかと思っております。

○大西委員長　　岡本委員。

○岡本委員　　確認になりますけれども、そうしますとサクセスさんが全体の許可を得ているということで、サクセスさんの名前を出すのであればということには、そういう条件は付くのでしょうかけれども、それであれば個々の方は特に許可を取らずに、

食品衛生責任者も置かずに、加工所を利用出来るという、そういう状態になっているということで良かったのでしょうか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 委員のおっしゃる通り、そのようになってございます。申し添えたいしますと、明記についてはその場合、道の駅にちなん日野川の郷として表記されるため、誰が作られたかというのは載らないということでございます。

○大西委員長 よろしいですか。岡本委員。

○岡本委員 分かりました。それと、これは確か前回の委員会の時にどなたかおっしゃっていたと思うのですが、その売上客数というのはこれで分かるのですが、全体の経営状況というのはどうなのでしょう。まだ昨年度の決算というようなものは出ていないのでしょうか。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 こちらのほう、9月の決算議会に併せて提出させていただくように準備を進めていただいているところでございます。

○大西委員長 近藤委員。

○近藤委員 日南町で大きなイベントとしてホテルがありますけれど、自分も係わっておる関係で若干お伺いしたいのが、この企画課、観光協会、そしてまた地域とタッグを組んだ大きなイベントになってきましたけれど、それによる道の駅の効果というか、そのイベントによる効果というものは検証出来るのでしょうか。出来ないのでしょうか。お伺いします。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 ホテルイベント中の道の駅の経営状況につきましては、ちょうどホテルイベント期間中だけ切り取って、道の駅のほうに1日全体の売上、及び6時以降の売り上げ、レジ通過者というのを別途調査していただきました。結果を見ますと、日によってまちまちなところはございますが、ホテル営業期間中、多い日につきましては1日の売り上げの中で6時以降の売り上げが最も多いという日も多くございました。ホテル期間中につきましては、間違いなく売上につきましても、レストランの利用者につきましても、イベントの効果があつたのではないかとということで報告のほうをいただいております。

○大西委員長 岩崎委員。

○岩崎委員　　前回、レストランの拡張の時にも質問をさせていただいたのですけれども、この道の駅の指定管理を受けられるに当たって計画のほう、年度計画で収支の目標を定められていらっしゃいます。見込みということでございますけれども、その中でやはりサクセスさんに非常に期待しておりますところが、ネット販売とか、それから外商事業ですね。そういうところに、これまでない指定管理業者の魅力というのを感じておるところでございますが、その辺りの具体的な動きというのが分かりましたらご説明をいただきたいと思っております。特に今年度までは、収支の計画でいきますと最終的には赤字の状況でございますけれども、令和2年度からは黒字経営を目指していらっしゃるというところでございます。確かに昨年29年度に比べますと、経営状況というのは良くなっているかもしれませんが、当初申請のありました計画に対しての目標に関して、やはりそういうところの強みというのをしっかり発揮していただきたいなと思うわけでございます。そういう情報がありましたら、ちょっと質問をさせていただきたいと思っております。

○大西委員長　　榎尾参事。

○榎尾参事　　先ほど委員のおっしゃられましたネット販売、外商につきまして、経営者会議の中でもそのような話を進めております。まずネット販売につきましては、中四国さん家、中四国は漢字で、ひらがなでさん、家という名前を検索していただければ、サクセスさんのECサイトのほうが、YahooもしくはGoogleで検索していただけると一番トップに出てまいります。そちらのほうに、にちなんの道の駅の商品のほうをラインナップしていただいております。今現在は、ドーナツですとかお菓子類が約4点から6点並んでいるところで、まだまだ十分なところではございません。時期になりますとお米を載せたり、野菜の直送便ということもされておられます。ただし野菜につきましては、チルド便で送っても鮮度が落ちてしまうというところもありまして、今まだ検討中というところではございますが、試験的にはされておられるのが現状でございます。ただし、まだまだ出荷者さんが出していただいている商品が多く載っているところではございませんので、その辺りは日南町の特徴的な野菜という部分を強みに、鮮度の部分もございまして、その辺りを研究して載せていきたいということで話を伺っております。続いて、外販のほうになります。外販につきましては、サクセスさんで経営されている香川の道の駅との物流の交換ということも計画されております。ただし、香川のほうにも提携した野菜農家さんがございますので、同じよ

うな野菜を並べるといのはなかなか難しいかなというのが、いただいている話でございます。ただし、日南町の特徴的な野菜、これぞ日南町の野菜というものであるならば是非とも取り組んでいきたいということで、今現在精査をされているところではございます。併せて今動きとしまして、県のアンテナショップに働きかけをしたりですとか、そういうことをされているところではございますが、こちらのほうは検討、調整しているところではございますので、こちらのほうはまだまだ進んでいるという状況ではございません。

○大西委員長 岩崎委員。

○岩崎委員 先ほど EC サイトですね、こちらのほうに日南町の商品 4 点から 6 点程度載っているというお話ですけれども、このいわゆるインターネット上で販売をするというのは、いかにその情報を広げていくかというところが大切かと思えます。現在そのサイトが町関係、町のホームページ、あるいは道の駅、観光協会等、どこからのホームページからリンクを貼った形となっていますでしょうか。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 大変申し訳ありません。全ての今おっしゃっていただきました、特に町が力を入れていかないといけない町のホームページですとか、観光協会のホームページにリンクが貼ってございませんで、道の駅のほうにはすみません、不確定ではございますが、確か載っていたかと思えます。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 補足させていただきます。インターネットのリンクと、その他このネットによります PR についてはまだまだ努力不足というところも認識しておりますので、更なる努力も重ねてまいりたいと思えますのでどうぞよろしく申し上げます。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 話をまた戻してしまっていて申し訳ないのですけれども、直売の加工実習室の件ですが、こうこうこういう条件で使えますよというようなことを紙に書いたものにして、出荷者協の方ですとか、そういった形に配布して周知されているというようなことは、十分されているのでしょうか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 この加工実習室もさることながら、多目的ルーム等もどんどん使っていたきたいわけではございますが、先ほど報告しました通りの件数で留まってい

るというのが現状でございます。委員ご指摘の、特に加工実習室の利用につきましては、なかなか口頭、話しての説明の中ではご理解いただけない部分が多分にあるかと思っております。その中でいわゆるマニュアルを作っております、ただそれが十分普及しているかどうかについてはやや今も疑問を持っておりますので。そのマニュアルをもっと有効活用するように、もっと明確にしてそれぞれお使いいただけるように取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 分かりました。マニュアルの作成ということでよろしくお願い致します。それで、またちょっと話があちこち行って申し訳ないのですけれども、非常にレストランの伸びが特に良いということで、これは非常に好ましいことです。それでこのレストランの伸びがどの程度地元産品の伸びに繋がっているかということなのですから。具体的に言えば、レストランの食材にどの程度地元産品が使われているかということが1つと、それとレストランのお客を直売所のほうに誘導するような努力はどのくらいされているかというようなことを分かれば、分かる範囲で教えていただければと思っております。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 レストランにつきまして、今現在の地元産品というところがございますが、申し訳ございません。きちんと把握しておりませんが、今後という部分にはなっておりますが、道の駅の直売所で売られている野菜につきまして、そちら直売所のものをサクセスさんのレストラン部門が仕入れ、買うというような行為を行って、地域の野菜を取り入れていくということで、ちょうど昨日経営者会議のほうを行いまして、そういう話をサクセスさんのほうからしていただきました。今後につきましては特に野菜につきましては、地元の野菜ということで並んでいくと思っております。レストランを使われた方が直売所に流れるような仕組みという部分につきましては、なかなか全てのお客様に対してそういうことは出来ていないのではないかとと思っておりますが、今後地元の野菜を使うということになりますと、道の駅に地元の野菜、出荷者様のご了解も得ないといけないのですが、例えば顔写真を載せたりですとか、直売所にこの野菜は売っていますというようなご案内をさせていただきまして、直売所のほうで野菜も買っていただける、相乗効果が狙えるようなことも考えていきたいと思っております。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 是非レストランから直売所へお客さんを誘導するというような努力もこれからされていくということですね。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 指定管理業者としてサクセスさんが経営にご努力をいただいて、売上げが伸びておるといのは非常にいいことなのですけれども。農産物直売所のほうで仕入れて販売されておる物と、町内の出荷者協議会の会員から出荷されて販売されてる物とあると思うのですが、町内産の割合というのはどの程度あるのでしょうか。と言いますのも、農産物直売所はトマト、ピーマンの生産振興を目的とした旨い果菜の里づくり事業の施設なのですよ。地元の野菜をPR、宣伝、販売をするという目的なのですけれども。やっぱりそういうことから考えますと、地元産の農産物が一定程度そこで販売される、あるいは町内で生産されていくというのが筋だと思うわけであります。出荷者協議会のほうでも努力はされておるとは思いますけれども、直売所の全体を見渡した時に、町内産の農産物の割合が非常に少ないというイメージを受けておりますが、町内産の農産物等の販売額に占める割合というのはどの程度なのでしょうか。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 まず昨年度の実績でお話させていただきますと、昨年度につきましては出荷者協さんが出されている物、サクセスさんが仕入れている物、割合的には50%、50%ということで、半々でございました。今年につきましては7月末現在で、出荷者協様分の売り上げが、先ほど2,200万円という話をさせていただきましたが、うち41%、昨年比べて若干落ちているというのが現状でございます。そこに占める野菜の割合ということになりますと、野菜全体の売上、こちらのほうはサクセスさんが仕入れた物でございますので、全て出荷者協様分の売上になりますが、約190万円がうち野菜ということですので、10%を切るような状態というのが現状でございます。

○大西委員長 出荷者協の話もあるので。坪倉委員。

○坪倉委員 先ほどの加工自習室の利用の話もあったのですけれども、4、5年前から道の駅開設に向けて、町内での特産品作りに町から民間事業者へ委託という形でたくさんの商品開発に取り組まれましたけれども、特にドレッシングを中心に特産品開発に取り組んで、委託事業としてその当時上がっておったのですけれども、現時点

でそれらの商品、委託で出来上がった商品の状況、そして現在での販売、直売所での状況について説明をお願いします。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 委員ご質問の特産品、とりわけドレッシングの状況でございますが、最初に開発当初は18品開発を行いました。ただ実証事業ということで、売れるか分からない、そういった中でのスタートでございます。一生懸命みなさん取り組んでいただきまして品数は出来たのですが、開設と共に売上もそれぞれそこそこに、月約30万円程度が推移しておったかと認識をしております。ところが最近の傾向としましては、若干落ち込んでおりまして、今、月の販売売上が10万円前後を行ったり来たりしておる状況でございます。この辺りの背景としましては、いろいろ消費者の好みもあろうかと思えますし、生産者の体制というのもあるかと思っております。その辺りでの、更なるブランド化に向けた取組みに対する支援、行政支援というものは、何かしら必要ではないかということで、現在検討もしております。それがドレッシングの改良版がいいのか、それとも他がいいのかというところは、また出荷者のみなさんとも話し合いながら進めてまいりたいと思っておりますが、現在の状況はそういったところでございます。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 前の話に戻りますけれども、農産物直売所、旨い果菜の里づくり事業で県の支援を受けて作ったのですけれども、旨い果菜の里づくり事業、今年度最終年度ということなのですけれども、旨い果菜の里づくりのがんばる地域プラン、これの直売所の計画時点での目標が年間来場者数9万人であったと思っておりますけれども、その辺で県への実績報告等についてはどのようなになっていますでしょうか。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 旨い果菜の里づくり事業の件ですけれども、毎年県のほうに実績報告は行なっております。今手元のほうに持ってきておりませんで、実績報告の内容については、前回岩崎委員のほうから言われたものを、現在の到達状況、執行状況ですということで、先日8月2日ぐらいに送らせていただいたかと思っておりますけれども、県のほうには毎年報告をさせていただいております。

○大西委員長 古都委員。

○古都委員　先ほどの同僚委員の質問に対して、執行部のほうから直売所の野菜をレストランでという構想も練られておるといふ報告があったわけですが、まだ使っておられるかどうか分かりませんが、私の記憶では確か、販売額に対する促進費が指定管理者のほうに払われるということになっておったと思いますけれども、その場合は出荷者協が出されたものをレストラン部門が買われた場合でもそういった補助をされるのかどうか、そこについて今の段階でお考えを聞かせていただきたい。

○大西委員長　榎尾参事。

○榎尾参事　今現在、委員おっしゃられた点につきましては、内部で調整を重ねているところでございますが、ベースになる部分はおっしゃられた通り、全体の出荷者さんの全体売上の15%を委託料に上乗せをしてお支払いしているような状況になっております。こちらの部分、からくりだけ見るとサクセスさん安く仕入れられるのではないかという部分になってまいりますので、町の中でもその辺り精査をして考えていきたいと思っております。

○大西委員長　古都委員。

○古都委員　これが実行された時にイメージしてみますと、サクセスさんがどの段階で仕入れをされるのか。いずれにいたしましても、朝一番に欲しい物を取られれば、品薄が生じたり、逆に売れ残った物ということになると非常にありがたい話で、売れ残り品の処分の問題はなくなって、これに対する補助も必要なくなるわけですが、両方とも営業でございます。どちらかがいいものを先に取れば、売れ残りという物がお客さんのほうにも回るといふイメージを持つわけです。もしも実施されるのであればそういうことがないように、いわゆる売り場以前にですね、裏の集荷場辺りでの処理をされないと、非常にイメージが悪くなるのだろうと思っております。そこの辺についてのお考えがあれば、お聞かせを願いたい。

○大西委員長　実延企画課長。

○実延企画課長　委員ご指摘の点につきましては、その通りだと思っております。話す中では、サクセスさんがレストランで使われる野菜というの、売上と共に非常に多く消費をするようになった。そのことから、近場からの定時、定量に近い形での仕入れをしたいのだという中では、作られる方、生産者の方にも無理強いをしてはいけないと思っております。お互いが立つような形で、先ほどいただいた案も参考にしながら調整を図ってまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

○大西委員長 櫃田委員。

○櫃田委員 先ほど加工所の利用につきましてはマニュアルを作って利用、ちょっと上向きに上げるというお話でしたけれども、3年間でずっと右肩下がりに下がっています。それでこれは加工所には、かなり高額な調理器具も入っています。それでこれは利用がしづらいのか、あるいはこれらの調理器具が必要ないのか、その辺はいかがでしょうか。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 委員ご指摘の点についての現状でございます。先程、他のご質問等でもご指摘いただきましたが、ドレッシングを作る際には加工実習室で作ると、そういった商品作りを主に作られておられる経過でございます。その中で、先ほどもおっしゃいました、割と高度な、いわゆるレトルト商品、パックして袋詰めして箱詰めして出せるような商品まで作れる機械が入っております。そういったところで、ハードルがちょっと高いというようなお声もいただいております。つまりは、先ほどのマニュアルの話にも繋がりますが、マニュアル化したからといってなかなかすぐに触れるものではないのではないかと考えております。つまりは、ここに講習会であるとか、普及促進に向けた支援という、何らかの支援が必要ではないかというのを今課題認識しておとるところでございます。従いまして、今後この辺りをまたいろいろな財源等も活用しながら、行政が支援出来る体制というのは引き続き検討してまいりたいと思っておりますけれども、出荷者の中でも先駆的にその辺りの知識に長けた方もいらっしゃいますので、その辺りの方とも相談しながら全体的に利用が高まるような動きというのも取り組んでまいりたいと思っております。ただ現状としてはそういったところで、なかなか高価なものから簡単な包装、真空の包装が出来るものもありますが、そういったものがまだまだ普及出来ていないというところは戒めてまた改善に取り組んでまいりたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○大西委員長 古都委員。

○古都委員 直接的な話ではございませんけれども、先般来、お話を聞いておると、ここでも申し述べたことがあります。同時期に文化センターの喫茶ルーム、それから今のレストラン、両方で50席を超えるものが設けられる。なかなか営業が大変だとは思っておりますが。唯一これが接点で議論されるのは、役場の中だろうと思っております。

おります。そういった情報もサクセスさんのほうに挙げておられるのか。あるいは教育委員会関係との調整が出来ておるのか。お聞かせをいただきたいと思います。

○大西委員長 実延企画課長。

○実延企画課長 委員ご質問の点につきまして、まずサクセスにはこういった改修があるということは述べております。一方、内部での協議という点につきましても全く行っていないわけではなく、こういったところでどう展開しようかというところは行なっておりますが、正直そこに留まっているのが今現状でございます。どのようにそれぞれの消費が上がるか、また町内の飲食店の皆様にも影響が何らか出てくるというところも含めまして、トータル的には具体的にこうしていこうというところは申し訳ございませんがこれからというところで引き続き協議を重ねて参りたいと思っております。いずれにしましても、それぞれに目的があって成り立つ施設でございます。共倒れしないようには十分注意しながら進めてまいりたいと思いますので、またその都度運営について協議を図りながら、共に進めていけたらと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員長 古都委員。

○古都委員 是非共倒れ等がないようにしていただきたいと思いますが、基本的にはこの中心地という観点の中で、やはり全体構想を見てこのバランスとか、当然町民もだんだんに人口が減っております中で、50席というびっくりするような数が増えるということになれば、そこの辺を全体計画の中で綺麗に整理されておかないと、どちらも役場がお金を出して、それぞれの管理される方に希望を聞いて実施するわけですので、企画課あたりが当然そこの辺もよく練っていただかなければいけないと思いますけれども、それについてコメントがございましたでしょうか。

○大西委員 丸山副町長。

○丸山副町長 これに直接関係はなかったわけでありましてけれども、商工会等との会合がありました。その中で、今委員さんがおっしゃったようなこともお話をして、町の計画の中で文化センターや道の駅等々にていろいろと計画があるということを申し上げて、その商工会全体としての何か影響とか考えとかがあったらまた教えてくださいということで、協議ではありませんけれどもしたところでもあります。その中におきましても、商工会としては相乗効果というところもあるし、ただ違った面でいろいろ今レストランばかりでなくて全体の中心地の中での商業というところを見直すとい

うか、よく見なければならぬ状況も発生しておるので、良い機会ですのでまたいろいろなところでの中心地全ての、その商業も含めたところの協議が必要であるということを、先ほど委員さんおっしゃいましたけれども全体のところでも協議が必要であるということを商工会のほうも考えておられますので付け加えさせていただきます。よろしく願いいたします。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 古都委員と関連なのですけれども、専門的なことが分からないのであれなのですが、その個々の店舗についてどのくらいの集客を見込んでいるのか、集客増を見込んでいて、それでどのくらいの収益増を見込んでいるのか。それが現実的な数字なのかどうかというようなことを考えることは出来るのかということと、あとこの間道の駅に関してはガラスで囲いをするということで、冷暖房が効くので冬の間も使える。それで冬の間のイベントも考えておられるというようなお話もあったと思うのですけれども。そういったところで、どんなイベントをやっていて、それによってどのくらいの集客増を見込めるのか。これはある種の皮算用にすぎないのですけれども。それでもしないよりはしたほうがましなのかなという、こういうようなことを思っていて、結果としてこうなったというのですね。結果として集客に追いつかないということはもちろんあると思うのですけれども。そういうことをやってみるというのはどうなのでしょう。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 申し訳ございません。詳しい資料につきまして、前回全員協議会の中で説明をさせていただいた資料を、申し訳ございません、持ってあがっておりませんが、詳しい数値を覚えておりませんが、委員おっしゃられたように冬場も窓があることによって活用出来るという部分を最大限利用していきながら、全体の売上向上というのを見込んでまいりたいと思っております。今現在どのような形で活用していくことが出来るのかというのは、道の駅のスタッフとも検討を重ねているところではございますが、きちんとした形で数字というものまで、申し訳ございません、今ご提示出来ないのが現状でございます、その分研鑽していきながらより良い効果的な活用というのを目指していきたいと思っております。

○大西委員長 よろしいですか。そうしましたら、2番目の出荷者協議会との連携について、報告をお願いします。坂本農林課長。

○坂本農林課長 出荷者協議会との連携についてということでご報告をさせていただきます。出荷者協議会は、平成27年度に設立されて現在4年目という経過をしておるところです。その間道の駅の運営主体が変わりまして、今現在2社目ということになっているかと思えます。出荷者協議会と道の駅の連携の状況としますと、基本的に出荷者協議会というものが生鮮加工品等々をまとめて出すというような格好で、生産者を募って直売所に各生産物のほうを出荷をします。自分で価格を設定し、陳列等についても基本的に自分で行うという格好で、道の駅としましてはそれを委託販売という格好で受けているという形になっております。生産物の手数料としまして、生鮮品、野菜等につきましては15%、加工品や手工芸品につきましては20%の販売手数料をいただいているというような連携の仕組みになっております。現在道の駅では、出荷者協議会と連携しまして、基本的に地場産品を中心に据えてと。中心には日南町の野菜だったり、日南町の加工品というものを中心に据えながら、新たな商品開発、現在スイーツとかというものが出来まして、こちらにつきましても日南町の原材料を使って加工をして、日南町のほうで販売するという、日南町の原材料とした商品の開発という部分や、これは集客というところになるのですけれども、4県に隣接する立地状況を利用して他の道の駅等と連携したというところや、他の地域の物も入れるというところで、商品の充実を図って集客力を高める取り組みをしているところです。道の駅側としましてはレストランが非常に現在好調でして、例月前年対比で見ますと伸びている月が多いということは皆様ご存知かと思えます。内容を充実させていくことによって顧客数を伸ばし、それでなおかつ直売所のほうにも人を促すという相乗効果を狙って取り組んでおります。また先ほど榎尾参事のほうも言いましたけれども、レストランのほうで現在は米子のほうから仕入れて野菜のほうを使っておりましたけれども、基本的に来るだけ町内産のものも積極的に使っていきたいということで、売り場のほうに出る野菜を売り場に持って来ていただいたら、そちらのものをレストランのほうで活用していくという仕組みを今後行っていきたいという話を聞いておりますので、そういったことが出来れば、またレストランの中で今日の日南町野菜という紹介等も出来るでしょうし、そういったところで集客を増やしながら、今度は直売所にお客さんを流していくということが出来るのではないかなと思っております。また出荷者協議会のほうとしましては、毎月役員会をしております。毎月の売り上げ状況や販売の状況等、生産者の中で役員等で情報共有しまして、旬の野菜の情報だった

りとか、売れ筋というものを把握しながら販売促進に取り組んでおります。現状としましては、なかなか前年をクリアするということが出来ておりませんで、販売額としまして伸びていないところが現状ではありますけれども、そこに生産者としまして今一度頑張ろうという努力をしているところです。その協議会の役員会等につきましては、運営会社のほうも参加をしていただきまして活発な議論のほうを交わさせていただいております。どうすれば魅力的な道の駅になるのかということをお互いが意見を出し合って検討している中で、最近ですけれども、売り場の講習としまして陳列だったりとか、商品自体は良いものなのにパッケージがなかなか田舎っぽさが抜けなくて売れないというところもあつたりしますので、そういったところについても踏み込んでいきたいという講習会等も開いております。また生鮮品野菜につきましても、日南町の核となるものを選定して、そういったものを作って販売を強化していきたいというような取り組みをしているところです。

○大西委員長　　質問がございましたら。岡本委員。

○岡本委員　　いろいろ講習なども含めて、あるいは新商品開発でもご努力をされているということで、是非積極的にやっていただきたいと思います。私がお聞きしたかったのはちょっと別のことでして、出荷者協議会の方がいろいろとサクセスさんに対するご要望を、これを出荷者協議会の役員会などで出されていると思うのですけれども。その辺りどんな要望が出ているかということ、それをどのようにサクセスさんに伝えていて、それでサクセスさんからどういう返事が返ってきているかというような、そのあたりのことをちょっと教えていただきたいと思うのですけれども。

○大西委員長　　丸山副町長。

○丸山副町長　　ちょうど昨日も会議を開いたところでありまして、私も4月から就任をしておりますけれども、はじめ本当に風通しが悪いようなところでした。皆さんが本当に我慢してと言うか、相手のことを重んずられるかよく分かりませんが、あまり相手側に伝わらないというような状況があつたと思います。そういうところにおいて、それぞれが本当に思いのところが話されたらどうですかというようなことで私たちも入らせていただきました。その中で最近も項目を挙げられて、出荷者さんのほうからその会社のほうにこの考え方はどうかというようなことを言っておられました。本当は直にお話をされれば良いと思うところがありますけれども、いろいろと気遣いとかいろんなことがあつての対処だつたと思います。そういうようなところで、

これで十分ではありませんけれども、さらに出荷者協さんとその会社等とのお話を出来れば私たちが入らせてもらって話が出来ればいいかなと思っております。昨日、ちょうど話の中でいろいろと話があったのが、要するにいろいろな今状況が、話が出ておるけれども、やっぱり地元のお客さんや出荷者が道の駅の一番のロコミ客であると考えられるというようなことが言われました。それで、悪いというか前向きでないような考え方が外に出てくるので、それはあまり面白くない、本当に出荷者協も一生懸命頑張っておるけれども、なかなか数量とかが揃わなかったり、それからだんだんと高齢化もしておるといふところがあって、努力をしているけれども品数が少ないとかいろいろあったり、それから会社とのやり取りがまずかったりというようなことが、やっぱりロコミで外に出て行って、だんだんと品物でなくてそういう話が外に出て行くので、是非品物を見て欲しいというようなことも話しが出ておりました。ですので、前向きな、みんなで一緒になって道の駅を良くしていこう、品物を良くしていこうというような話の協議が出来ればいいのにな、これからもやっていきたいなというような、出荷者協の役員さんの話も聞かせていただきました。そういうような状況が発生しておりますので、私たちが前向きな話をしていきたいなと思っておりますし、またご指導もいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 副町長、どうもありがとうございます。もちろん前向きな話し合いをしていただかなければいけないわけですね、それは是非是非続けていっていただきたいのですが、それで何と申しますか、もちろん出荷者協の方が言っていることが全て正しいとかそれを全部実現しなくてはいけないとかということではないのですが、出荷者協の方がやっぱり道の駅に関しては一番係わりを深く持っておられる、一番係わりが深いのはもちろんサクセスさんなのかもしれませんが、その出荷者協の方も努力をされて道の駅を良くする、あるいは道の駅を通じて日南町の農産物を売っていくということで非常にご努力をされていると思うので、私としては出荷者協の方のご要望は可能な限り叶えてもらいたい。叶えられないのであれば、それはもっとこういういい方法があるのでこういうようにしたほうがいいんですかというのは、ご提案をサクセスさんからいただくと良いと思うのですが、サクセスさんになって1年半弱ですか。まだこれからというのはあるのだと思うのですが、ちょっと一度その要望を本当にリストアップして公開していただいて、それ

に対して要望出しましたと、それでそれに対してサクセスさんからこういう返答がありました、あるいはまだありませんというようなことをちょっと整理していただくということは出来ないでしょうか。

○大西委員長 丸山副町長。

○丸山副町長 ちょっと分からないところがあるのですけれども、それは一応昨日の段階でも文書を出荷者協さんが出されて、それをサクセスさんが答えられた。それから町側も答えなければならないところがありましたので、それでとりあえずは出荷者協さんも、ではまた持ち帰ってみんなで協議をしてみますということがあるのですけれども、その回答をこの場に出さなければいけないという意味でしょうか。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 出荷者協さんも任意団体ですか、サクセスさんも民間の会社さんということで、もちろん同意は必要なのだと思います。無理やり出せよというのはなかなか出来ないのかもしれないですけれども。ただ、少なくとも出荷者協さんの要望は出荷者協さんの同意が取れば、こういう要望を我々は持っていますということ自身は公開出来ると思いますし、それに対してどうなのですかね、サクセスさんがどう対応するかというような。何と云うのですかね。その辺私もちょっと契約上どうなっているかということとははっきりとは分かりませんが、普通の民間会社ではないことは確かなわけですね。指定管理を受けているということで、やっぱり町民の方も非常に注目されていることであるというのがありますので。その辺はご理解をいただいて、公開出来ないところがあるのであれば、一部を公開しないというようなことも取っていただいてももちろん構わないとは思いますが、そういうやり取りを町民にも分かるようにしてもらえれば、より何て言うか出荷者協さんの努力もそうですし、サクセスさんの努力もより町民の方に伝わるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○大西委員長 丸山副町長。

○丸山副町長 目的は、1つは出荷者協さんが出されたのは道の駅を良くしていこうというところで、それぞれが努力をしていこうというところで、この意見書を出されたところでもあります。ですので、それぞれが話されて、その納得のいくところでの、文章で回答してくださいとはありませんでしたので、昨日の口頭でサクセスさんがずっと答えてこられた。それから私の部分も、町の部分もありましたので、関連があり

ましたので、それは答えていった。出荷者協さんは、それなら役員会のほうでもう1回これを持って帰って話しをしてみるというところがありましたので。全て納得されたわけではありませんので。そういう段階ですので。どういう要望があったということは、資料提供で多分出れると思いますけれども。その回答等々について、まだ現在進行形というような状況にありますけれども、とりあえずどういう要望が、意見があったということは、多分出していいのではないかとは思いますが、これも協議ですけれども。出荷者協さんあたりと協議をしてみたいと思いますけれども、それではいけませんでしょうか。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 それはもちろん出荷者協の方の同意は必ず必要ですので。是非ご協議をいただいて、公開出来るものは公開していただいた方が良く私は思います。出来ればそれでサクセスさんの返答と言うか、努力と言うか、我々はこういうようにしているのだよということも公開していただければと思いますので、是非その辺は両者と話していただいてご検討いただければと思います。それで、あと1つ、私やっぱり端的に1つ確認させてもらいたいのは、駅長さんの件ですね。おそらく要望の中にも入っているのではないかと思うのですけれども、駅長さんが常駐していない。度々変わって、おそらく3人目だと思うのですけれども。今3人目で、今の方は出雲のほうの準備に行っていたり、香川のほうでもやっていたりとかというようなことで、駅長さんが常駐していないし、結局常駐してないが故にその道の駅の経営の全体を見ている人がいない。道の駅と、物販直販所とレストランとの全体の経営状態見ている人がいない。それが故になかなか出荷者協とかお客さんもそうですけれども、現場で要望を伝えるところがないというような状態になっているという話を聞くのですけれども。その辺りの改善策と言うか、どのようにサクセスさんは考えられておるのでしょうか。

○大西委員長 丸山副町長。

○丸山副町長 具体的になったというところは確認をしておりますけれども、昨日のこの会議では、なるほど駅長の常駐についてどうかということが出荷者協さんのほうから問いがあっておりますので、それに答えられたのはいろいろ検討した結果、今の駅長さん、週5日勤務でやるので、基本的には普通だったら全てですよ。月・火・水・木・金で5日なりますけれども、土日がありますので、その辺はどこかでまたカバーされるのかもしれませんが、週5日勤務にしましたので、常勤と同

じような状況になりますので、そのいろいろの対応は駅長がしていきますということ  
を言っておられました。その週5日というところで、出荷者協さんについては納得を  
したというところでのお話はありました。

○大西委員長 岡本委員。

○岡本委員 そうしましたら確認しますけれども、週5日ということは普通に週休  
2日、全部日南の道の駅にということなので、他の道の駅との兼業ということでは  
なくて、もう専門で1人駅長さんを置いていただけるとい、そう考えて良いので  
しょうか。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 こちらのほう、先ほど副町長も申しましたように、時期としましては  
9月からということで昨日話をいただいたのですが、9月から週5日の勤務というこ  
とで、常駐をするということをお話しいただいております。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 委員長に確認なのですけれども、先ほど岡本委員からその要望書等の提  
出等について発言があったわけですけれども。この委員会として、そこまで資料を要  
求するかどうか、今委員長として判断を。みなさんの意見も聞いた上で判断をしてい  
ただきたいと思うわけですけれども。指定管理事業者と出荷者との間のことでありま  
す。本委員会として、そこまでの資料提供を執行部に求める必要があるかどうかにつ  
いては若干疑問に思っておりますので、整理をいただきたいと思います。それで出荷  
者協議会のメンバーの中には、先ほど岡本委員が言われたように、駅長に対する思い、  
それから出荷した農産物の扱いに対する思い、中には不満を持っておられたりされる  
方もあります。最終的に出荷者協議会、組織体として文書で提出されたということは  
あるかと思っておりますけれども。そこは当事者同士の交渉事でありまして、そのこと  
を執行部にこの委員会として求める必要はそれほど、そこまで重大な運営上の課題とい  
うのは認識出来ないと思っております。

○大西委員長 この件につきましては、みなさんのほうからご意見ございましたら。  
この件をちょっと先にやりたいと思うのですが。近藤委員。

○近藤委員 自分は大変疑問に感じておったわけですけれども、やはり経営者とその  
出荷される方の間でありまして、自分たちはこの経営とかその運営の方針とか、そう  
いう形について精査するのが役割ではないかと思っておりますので、自分もその資料

を、そのお互いの意見のやり取りを公にすることは、いろいろな意味において、また問題も出るかもしれませんし、必要はないと自分は思っていました。

○大西委員長　　他の意見の方は。久代委員。

○久代委員　　同僚委員から意見もあったわけだけれども、せめて出荷者協から出された文章で、要望として出された内容については、出荷者協というのは農林課の管轄で行なっている組織ですので、やっぱり出荷者協がどういう要望を出されたのかという点については、資料として提供されても何らおかしくないと思いますが、どうでしょうか。同僚委員のみなさん。

○大西委員長　　古都委員。

○古都委員　　いろいろな意見が出ておりますが、出荷者協が出来て4年という、さつき課長の説明もありましたけれども。実際には準備段階から言ったら5年も経っておるわけですし、そろそろ水平飛行に移行しなければいけない。けれども、こういった団体は新しい会員が出来たり、辞められたり、いろいろ出入りの激しい組織でありますので、その都度、その都度いろいろな問題が出てくるのだらうと思うわけですし。これまで農林課も補助金を投入して、出荷者協議会の育成に当たってこられたという経過もあるわけですがけれども。やはり出荷者協議会の内容も後で質問したかったのですが、いろいろな生鮮部門とか木工部門とかあるのだらうと思いますけれども、なかなかそれがお互いの理解も取りにくい組織体になっております。おそらく。どう言いますか、野菜の方は木工のことはあんまりどうでもいいとかですね、なるのだらうと思います。そこは農林課のほうでしっかり整理されて、指導されてそろそろ水平飛行。今同僚委員が簡単に言うと、比較的に要望、回答という話もありましたけれども、それは出来れば担当課の内部で、極端に言えば、農林課と企画課が情報共有をされて、まだこれが出来ていないとか、逆にこういう要望が出たからどう対応してあげようかとかという、いわゆる事務処理段階の話だと思うので、私は本議会に両方の意向や回答を出すという必要まではないと考えております。同僚委員の意見を伺います。

○大西委員長　　岡本委員。

○岡本委員　　やや繰り返すにはなりますけれども、議会と言うか、この委員会の役割というのは行政をチェックするというのが第一の役割です。それと何か、今回の場合であれば道の駅に係わっている方の要望をしっかりと理解して、それを行政に反映させるということが非常に大きな役割だと思います。その時に要望が分からない、その

経過も分からないであれば、チェックのしようも要望の吸い上げようも議論のしようもないので。もちろん当事者の方のご理解は得る必要はありますけれども。無理やり出せということは出来ないとは思いますが、でも出来る限りのご理解を得て、農林課のほうでもその内容のチェックというか、整理というのはしていただいて、それで最低でも要望が出れば、それが今叶えられているかどうかということは道の駅にいったりすればある程度分かるわけですのでね。最低でも要望はどんな要望があって、それで出来ればどういう経過をとっているか、サクセスさんもどう考えているかということも出来れば公開して、その進捗状況というのをチェックしていきたいなと私の考えですけれども。

○大西委員長　　他の意見はございませんか。櫃田委員。

○櫃田委員　　今3名の委員が必要ないと言うか、言葉が適切ではないかもしれないが、そういうような出すものでもないというような発言だったので、私もそう思います。指定管理者と農林課、及び企画課がそれぞれの対応をされていて、その事務レベルの部分ですので、その結果を提示されて協議するというような部分だと思いますので、資料提供まではちょっと必要ないのではないかと思います。

○大西委員長　　よろしいですか。意見が出尽くしたと思いますので、私を除いたみなさんで多数決でいいですか。

（「委員長」と呼ぶ者あり）

○大西委員長　　分かりました。ではみなさんの意見を聞いた中で、私もこの公開、ここで文書を出すというのはそこまではいいのではないかと思います。なぜかと言いますと、こういった協議会とか経営者会議とか、そういった資料も全部チェックしなければならぬから、こういう課題は委員会に全部出しなさい、議会にというのは大変でございますので。私とすれば執行部からのここでの報告、そして委員からどうなのかということで、委員からまた情報を出荷者協からもらうなりしながら、やっぱり執行部とのやり取りをここで、委員会としてすべきだと思うので、私とすればここで内容まで公開、文書提出は必要ないと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○大西委員長　　久代委員。

○久代委員　　今執行部からの報告に、出荷者協議会からの具体的な、これこれこういう要望があったという具体的なその中身について報告が乏しかったから、あえてや

っぱり資料でも出してもらえないかという話になったのではないかなと思います。今、指定管理者のサクセスに対して、出荷者協議会が具体的にどのような要望を出されたのかということ、それではこの場で説明してください。

○大西委員長　　どのような内容の課題点、要望。久代委員。

○久代委員　　ですから、せっかくの中心地で道の駅についての項目を、出荷者協議会という項目をあえて立てていられるので、具体的な要望がどういう内容だったかということについてやっぱりこの場で説明してもらわないと、今のような意見になってしまうのではないかなと思いますが。それは執行部として、あえて出荷者協議会のみなさんに了解を取らなければいけないような内容だったらそうかもしれないけれども、ここの委員会で説明しても何ら問題のない、支障のない内容だったら、この際はっきり説明してもらうのがいいのではないかなと思いますが、どうでしょうか。

○大西委員長　　丸山副町長。

○丸山副町長　　いろいろと私の発言の中にも、間違いが、考え方が違ったと思います。岡本委員さんがこのことについてはなかったでしょうか、ということがありましたので、それもありますと言いましたので、手元に昨日の会議の資料を持っておりましたので、そのように答えさせていただきましたけれども。あくまでも先ほど申し上げた通り、協議会とそれから会社側のどのように思っておられるかという会議の中で、その場に出された資料でありますので、それを問題がないと思うのですけれども、やはり冒頭申し上げたように、出荷者協さんがそれは委員さん辺りにも見ていただいて、また助言してくださいということを確認していないので、全部こういうことがありました、こういうことを書いておられますということになって、思いが違ったり、それから1人歩きをして、本当に道の駅を良くしていこうという考え方を出荷者協さん思っておられますので、決して会社を批判したり、行政を批判したりするところの会議ではありませんでしたので。最終的に確認を取りましたけれども、そういう会議でありましたので、私が今言えるのは、本当に1つ1つの思いが込められた内容でありますので、それぞれが考えられて、それからそのあとまたもう1回返ってくると思います。サクセスさんの口頭でありましたけれども、それを伝えていかれると思います。そういうキャッチボールがあって、なおかつどうにもというところについては、もしかしたら執行部、私たちや、それからみなさんのほうに頼まれるかもしれませんけれども。今の段階としては、自分たちでどうにかしてやっていこうというところがありますの

で、この資料が1人歩きというところではなくて、それから言葉不足のところがあると思いますので、もしもどうしても委員さんのほうが見たいということになりますと、すみません、出荷者協さんのところの了解を取ってからあとで資料提出をさせていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○大西委員長　　という答弁ですが、出荷者協の許可を取って出すということですか。近藤委員。

○近藤委員　　兼ねてから、この出荷者協の役員さん2、3名の方からいろいろな話を聞く機会があって、聞いたわけですが、その中でやはりサクセスに変わってなかなか風通しが悪いと。なかなか自分たちの意見も聞いてもらえないし、取り上げてもらえないというような話は確かに聞いておりました。こういう形で要望書を出したり、質問書を出したりして、こういう形でそのキャッチボールが進むということを先般報告を受けまして、大変良いことではないかなというような期待をしております。これがもっともっと先ほど副町長がおっしゃられましたけれど、キャッチボールが進んでより一層親密になっていったら、出荷者協とサクセスとの間が密になって大いに結構だと思います。従って、こういう形で物事が進んでいる時に、要するに会社対出荷者協という形でありますので、お互いが信頼関係を持ってこういう質問書であったり要望書を出し合ってスタートしたということをお大変良いことだと思います。そこで、その1回1回の要望書であったりそういったものをこの委員会で取り上げる必要は自分はさらさらないと思えますので、これが行き詰まった時に自分たちもまたいろいろなところから話を聞いて、その上で執行部のほうに考えを正したいと思えますし、また執行部のほうでもこういう形がより推進されるよう、指導なり協力なりしていった欲しいと思えますが。

○大西委員長　　岡本委員。

○岡本委員　　すみません。私も新人で、ちょっと感覚が皆さんと違うところもあるのかもしれないのですが、その反対されている方のご意見をお聞きすると、自分たちは出荷者協の方の意見を聞きたくないと言っているような気が私はするのですね。別に議会として聞くか聞かないか、議会が別にそれを決める必要はあるのでしょうか。別に出荷者協の方に問い合わせしてみて、今確かに大事なところで秘密でやりたいから出さないでおきたいと言うのであれば、それはそのようにしておいて、やっぱり聞いてもらって議会でもちょっとこれがいい要望かどうかとかということを議論し

てもらいたいと言うのであれば出してもらえばいいことであるし、その辺は別に出荷者協の方に決めていただければいいところであって、それを議会でいやいいです、いいです、それは聞きたくないですと言っているような感じに私には聞こえるのですけれども。それはおかしくないでしょうか。是非、出荷者協の方の同意を得た上で、出てくるものは出る、出ないものは出ないという、それでよろしいのではないのでしょうかと思うのですが。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 決して、出荷者協議会の意見を聞きたくないという思いは全くありません。それは近藤委員も言われましたけれど、議員活動の中でそれはいろいろと聞いております。議員活動の中で、そういう意見も吸収する機会はたくさんありますし、昨日の出荷者協議会で要望書をペーパーで出されたということなのですからけれど、それがきちんとした要望書形式なのか、話し合いの資料としての扱いだっただのか定かではないですけれども。そういう内容についても、出荷者協議会のメンバー等からの意見徴収というのは、日頃の活動の中で出来るということがあります。もう1つは、議会として町民の意見を聞く、そして政策提言をする、執行部の監視をするという非常に大きな役割で岡本委員が言われるのも分からなくはないのですけれども、ただ、各種、町が関わる多くの事業の中、本当に1点審査と言いましょか、1点調査を全てやり出しますと、とても議会が回らないという、全体としてそういう思いもあります。ですので、今回ちょっとこの要望書の取扱いで深い議論になっておりますけれども、そういうことは古都委員も言われましたけれども、全体として道の駅の運営について執行部はどう対応しているのか、どう考えているのか、現場はどうなっているのかというところまでの特別委員会の審査でいかないと、あくまでも1点調査を全てやりだすと本当に大変な状況になるのではないかなという思いもあります。そういうことからしましても、今回ここまで拘るものでもないと思っておりましたが、深い議論になってしまいましたけれども。その文書については、出荷者協議会の許可とか、許可を得ないとかということに関わらず、本委員会として求めないということで、日頃の議員活動の中、それぞれの活動の中で、出荷者協議会さんの思いを聞き取るということだと思います。このことは、これから9月議会決算審査も始まりますけれども、本当に全ての事務事業について1点調査を深くやりだすと、本当に何か重大な問題が

あったら別ですけれども、やっぱり議会として大所高所からの議論というのをまとめていきたいと思っております。

○大西委員長　私もそう思いますので。そこまでの資料提出は求めないということにしたいと思います。古都委員。

○古都委員　そうしますと、私のほうからせっかくの機会ですので、農林課長がいいですか。伺います。先ほど申し上げましたが、出荷者協会員は150数名と以前に聞いておりました。さっき設例で木工だとか野菜だとか言いましたけれども、そういった部門がどういうものがあるのかということをもまず1つ教えていただきたいと思えます。

○大西委員長　坂本農林課長。

○坂本農林課長　出荷者協の中には部会が3つありまして、生鮮部会としまして、そちらのほうには所属が約120名の方がされております。食品加工部会としまして、そちらのほうに60名程。手工芸品部会のほうに40名という格好で、この人数足しますと増えていきますけれども、それは重複して部会に入られる方がおられますので、そちらのほうは両方ともその部会の会員ということで整理をさせていただいておりますので。人数とすると、大体総会のほうでは160名という把握をしておりますけれども、増えるという格好になっております。

○大西委員長　古都委員。

○古都委員　この組織の運営状況でございますけれども、いわゆる出荷者協全員で会をするのか、部会ごとの積み上げで、出荷者協の意見調整、あるいは先ほど話がありました、取りまとめあたりを役員会でやられるのか、そこの辺の段取りはどうなっておりますでしょうか。

○大西委員長　坂本農林課長。

○坂本農林課長　会議につきましては、基本的に役員会という形式でやっております。役員会のほうには、部会長さんや地域の各7地区にありますのでそちらのほうの部長さんと言いますか、が出て来ていただいて、会長、副会長という格好で役員会をしております。全体で集まっておりますのは、年に1回の総会としております。

○大西委員長　他、みなさんございませんか。そうしますと、その他の分でございますら。古都委員。

○古都委員 副町長も上がっておられますので、若干伺ってみたいと思っております。先ほどまでの話は、町内の特産物がたくさん出てたくさん売れてと。当然、指定管理を受けられた方も多くの方がおいでになって収益も上がると、こういうことが議論の中心であるわけですが、もう1つ行政として、日南町の住民の方が働き場として使えるというような目標もあったわけですが、現在少ないというようなお話を伺っております。募集をされても町民の方が応募されないのか、どう捉えておられるのかその辺ですね。私の情報では、住民の方は約1名と伺っております。道の駅で職員募集しても応募がないのかどうなのか。その辺の情報がありましたら、教えていただきたいと思えます。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 道の駅の町内の方ですが2名、道の駅のほうで働かれております。直売所とパティシエさんの計2名の方が、今道の駅のほうで働いていただいているような状況です。

○大西委員長 榎尾参事。

○榎尾参事 失礼いたしました。前段のことが抜けておりました。募集をしてというような状況でして、今現在9月に1名、新たに採用されるということでお話を伺っております。募集については、随時応募がある方につきましては、面接、採用というような流れのほうになっております。レストランのほうにつきましても、今後募集していきたいというような話も前回の全員協議会の中でもお話しさせていただきましたが、そういうような状況で、今募集をかけられているような状態になっております。ただ、手挙げはポツポツという状態で、競争倍率がすごい高いかと言われると決してそういうような状態ではないです。

○大西委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 ちょっと遡るかもしれませんが、直売所での、いわゆるJA鳥取西部が販売する日南トマトの取扱いの状況についてどのようになっていますでしょうか。それと農産物のいわゆる栽培履歴等の安全性の確認等については、どうなっているのか説明をお願いします。

○大西委員長 坂本農林課長。

○坂本農林課長 日南トマトにつきましては、基本的にはまず生産者の方、出荷者の方がまず出しておられているもので、日南トマトは並んでいないというような格好

になっております。道の駅のほうの要望としまして、そういった日南トマトを置きたいという要望をJAのほうに依頼をした際のみ店頭に並ぶというような格好で、基本的には出荷社協の方々が作っておられる個人のトマトについて販売をしているというような状況になっております。トレーサビリティのことにつきましては、現在はサクセスの運営会社のほうの職員のほうで対応をいただいているというような状況になっております。

○大西委員長　よろしいですか。では全体で質問漏れがございませんか。なければこれにて、本日の委員会を閉じたいと思います。お疲れさまでございました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和　　年　　月　　日

委員長

副委員長